

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	50.0%	自校A B層の割合	50.0%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	34.2%	自校A B層の割合	42.4%

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修 研究主題を「児童の学力向上を目指した授業改善～説明的文章における児童主体の授業を通して～」とし、日々の授業で児童が主体的に学習に取り組める授業改善を行い、学習への意欲を高め、学力の向上につなげる。 ○ミライシード研修 教員の活用の仕方に即した研修を実施し、授業に活かせるようにする。 ○板書の書き方 「めあて」「まとめ」など、児童の思考の流れに沿った板書計画を立て、指導と評価の一体化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算・漢字ドリル、漢字小テスト、東京ベーシックドリルの活用 ドリルでの反復指導やベーシックドリルでの満点プロジェクトを行う。 ○一人1台端末、ミライシード 「ドリルパーク」を活用し学習の振り返りをさせる。「オクリンク」などを活用し、資料などの共有化を図り、話し合い活動を活性化させる。 ○ノート指導の工夫 ノートの書き方を統一し分かりやすくまとめられるようにする。学習の振り返りでノートを活用できるようにする。 ○よむYOMUワークシートの活用 3年生以上が、週1回の朝学習で取り組み、読解力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す聞く態度や学習のきまりの徹底 呼名時の返事の仕方や、授業中のルールを徹底させる。授業中の「話すよ聞くよあいうえお」や「声の物差し」を活用し、指導する。 ○SNS鎌田っ子ルール 学校や家庭で、一人1台端末を使用する時の約束を統一し、指導する。 ○家庭学習 学期ごとの江戸川っ子study week!週間で、ドリルパークを活用した自主学習への意欲付けを行い、日常的に活用する習慣を身に付けさせる。各クラスで最も意欲的に取り組んだ児童や、毎日取り組んだ児童の表彰を行う。 宿題や自主学習で学年×10分程度の家庭学習を推奨する。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の充実 日頃の児童観察を心がけ、適切な指導方法について学年で協力し対応する。特別支援委員会でも情報を共有し、適切な支援方法について検討する。 ○学力到達度テストの活用 年に2回、漢字、計算の学力到達度テストを行い、各クラスの実態を知り、今後の指導の指標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後補習教室の活用 CD層の確実な受講を促し、放課後補習教室担当講師からの連絡簿などに目を通し、対象児童の学力の変化を把握する。授業での遅れなどについても情報交換し、より対象児童に効果的な指導が行えるように工夫する。 ○個別対応の保障 学習カルテを活用し、個に応じた教材を用意する。ミライシードを活用し、対象児童に合った問題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭との連携 持ち物がそろっていないことで集中できない児童に対して、連絡帳を書くことの徹底や、学習用具、宿題の忘れ物がないように家庭との連絡を密にする。生活指導便りや、Teams、tetoruも活用し、連絡する。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査児童質問用紙 「国語の勉強は大切だ」の肯定的回答割合90%以上 「自分の思いや考えをもとに作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」の肯定的回答割合80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査児童質問用紙 「国語の授業内容はよく分かる」「算数の授業内容はよく分かる」の肯定的回答割合85%以上 ○CD層 55%以下 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査児童質問用紙 「学校の授業時間以外の勉強時間 1時間以上」の回答割合70%以上 「読書は好きですか」の肯定的回答割合90%以上